

# モロッコにおけるタリーカの形成と発展

棚橋 由賀里

平成 30 年入学

派遣先国：モロッコ王国

渡航期間：2018 年 8 月 24 日から 2018 年 10 月 29 日

キーワード：15-16 世紀モロッコ、スーフィズム、タリーカ、聖者崇敬

## 対象とする問題の概要

モロッコ初の大衆的タリーカであるジャズーリー教団の形成過程を明らかにするにあたり、教団の名祖ムハンマド・イブン・スライマーン・ジャズーリー (d. 869/1465) の思想と事績が重要となる。現在流布している伝記では、ジャズーリーはモロッコ沿岸部を侵略していたポルトガルに対しジハードを呼びかけて民衆の支持を得たとされている。しかしこのエピソードは後世の潤色でありジャズーリーは政治活動と無縁な思想家・祈祷書作者であったという説[Frenkel 1993]と、少なくともジャズーリーの思想にはスーフィーによる社会変革を主張するものがあったという説[Cornell 1992]が存在する。政治活動を行い大衆の支持を集めたジャズーリー教団の思想と教義をジャズーリーに遡ることができるか否かということは、教団の形成過程を描き出す大きな鍵であると報告者は考える。ジャズーリーの著作の内容を体系的に検討することでその思想を明らかにしたい。

## 研究目的

本研究の目的は、マリーン朝末期 15 世紀モロッコに登場したタリーカであるジャズーリー教団の形成過程を明らかにすることによって、モロッコにおけるタリーカの大衆化と政治的影響力獲得のプロセスを解明することである。14 世紀までのモロッコのタリーカは、スーフィーやウラマーによる学問的・宗教的集団としての性格が強かったが、ジャズーリー教団は民衆の支持をも集め、16 世紀にはサアド朝興隆の要因となった。すなわち、モロッコ史におけるタリーカのありようの転換の契機と言える。この教団組織は 17 世紀以降衰退したが、その教義と系譜は今日の北アフリカ・西アフリカに広がり、現在でもダルカーウィー教団やハマドゥシャ教団などに伝わっている。ジャズーリー教団の形成と発展のプロセスを解明することは、北アフリカ・西アフリカという広範な地域のタリーカの根源を解明することにもつながる。

## フィールドワークから得られた知見について (800 字以内)

フィールドワークでは、ジャズーリーの著作をはじめとする写本の調査・収集を行った。ラバト、フェズ、マラケシュの 3 都市の 4 文書館で、未発見の写本史料 2 点を含むジャズーリーの著作 12 点と後世に書かれたジャズーリー教団関連の写本 9 点を入手し

た。その他、入手はできなかったが未発見のものを含む史料・文献 20 点あまりの存在とその所在を確認した。史料・文書館に関して最も重要な知見は、各文書館ごとに異なる写本の閲覧・入手のための諸手続き・利用法を、実践を通じて把握することができたことである。史料収集以外では、今後の現地調査を円滑にするためにラバトの語学学校で 4 週間計 45 時間の会話集中コースを受講した。日本でのアラビア語学習は文献の読解に比重を置いていたため、自らの語彙の偏りを痛感する機会となった。日常会話のほか現代のモロッコ・アラブ世界の社会問題に関する討論形式の授業も多く、自分の見解を筋道立てて話す訓練になった。モロッコ人家族のもとで 2 ヶ月ホームステイをしたこともアラビア語の運用能力と学習のモチベーション双方の向上に役立った。

当初の目的であった史料収集と語学学習以外にも得られた知見がある。マラケシュではジャズーリー廟と、ジャズーリーから数えて第 3 世代の弟子にあたるスーフィーであったイブン・アスカルの廟の敷地内に立ち入ることができた。ジャズーリー廟は工事中のため参詣者はいなかったが、改修が行われていることからジャズーリーが尊ばれていることがわかった。イブン・アスカル廟には多くの人々が集まって祈りを捧げている様子が確認でき、スーフィズム・聖者崇敬が現代モロッコに息づいていることも実感できた。また、サアド朝史研究者であるカウンターパートのルトフィー・ブーシャントウフ教授（ムハンマド 5 世大学）との面談を通じて、マリーン朝末期～サアド朝成立期に関する研究史の展開に関して理解を深めることができた。

#### 反省と今後の展開（400 字以内）

大きな反省点は、2 ヶ月滞在したにも関わらず現地の人々への聞き取りや研究者との議論が十分にできなかったことである。街の人々と話した感触では、アル＝ジャズーリーは政治的に活動した偉大なタリーカの長というよりは高明な祈祷書 *Dalā'il al-khayrāt* の著者としてのみ知られているように感じられた。そうであればジャズーリー教団の影響に関して、研究者と現地の人々の間で言説に開きがあるということになる。より深い聞き取り・議論を行い、ジャズーリーおよびジャズーリー教団の実像を理解するためにアラビア語の能力をさらに向上させて次回の渡航に備えたい。

今後の研究の展開としては、今回のプログラムで入手した写本の内容の検討を進めてジャズーリーの思想を明らかにしていくことが主要な取り組みとなる。

#### 参考文献

- Cornell, V. J. 1992. Mystical Doctrine and Political action in Moroccan Sufism: The Role of the Exemplar in the Ṭarīqa al-Jazūliyya, *Al-Qanṭara: Revista de Estudios Árabes*, 13(I): 201-231.
- Frenkel, Y. 1993. Muhammad al-Djazouli's Image in Biographical Dictionaries and Hagiographical Collections Written during the Sa'did Period in Morocco, *Maghreb Review* 18(i-ii): 18-33.



カラウィーイーン図書館（フェズ）の閲覧室（2018年10月25日撮影）



ムハンマド・イブン・スライマーン・ジャズーリー廟（工事中）